



有朋自遠方来

6月9日、米国クリーヴランド美術館長のシャーマン・リー氏夫妻が来館、中国陶磁展を見学しました。

リー氏は終戦後、占領軍美術記念物課長として来日し、その特権を最大限に利用して日本美術を研究した人で、現在では全米きっての実力派館長として精力的な活躍を続けています。

クリーヴランド美術館は、大重工業都市としての財力を背景に発展を続けている中堅美術館で、特に東洋通のリー館長の手腕で、東洋美術、なかでも日本美術部門の充実が目ざましく、その蒐集力は目をみはるものがあります。

この度の来日は、昨年同館で世界中から名品をあつめて行われた「モンゴル統治下〈元時代〉の中国美術展」の終了を機になされたものですが、きっとすばらしい名品が美術館へのお土産になったことでしょう。

季刊 美のたより No.11

昭和44年10月1日

発行 大和文華館